

歴史残る成瀬から
みんなでつくる新しいまち
南町田まで

町田市南地区 観光エリアマップ



このマップは、JR・小田急町田駅から南側のエリアをご紹介します。町田市を代表する桜の名所・恩田川が流れ、屋敷沼の自然や歴史ある寺社が多い「成瀬・高ヶ坂地区」、町田街道や境川に挟まれ、古道の跡も見られる「金高地区」、東急田園都市線の開業と共に宅地造成され、整った街並みが広がる「小川・つくし野地区」、すずかけ台駅周辺を走ってグランプラパーク開業でさらに人々を魅了する「南町田・鶴間地区」と、歩き進むごとに違った魅力が見えてきます。

町田市観光コンベンション協会

各駅からのアクセス

■成瀬エリアへは

- 町田 JR成瀬線 成瀬 徒歩及びバスで散策
- 新谷 JR成瀬線 成瀬 徒歩及びバスで散策
- 横浜 JR成瀬線 成瀬 徒歩及びバスで散策
- 八王子 JR成瀬線 成瀬 徒歩及びバスで散策

■南町田エリアへは

- 町田 JR東横線 南町田 徒歩及びバスで散策
- 小田急線 南町田 徒歩及びバスで散策
- 相模大野 JR東横線 相模大野 徒歩及びバスで散策
- 中央線 南町田 徒歩及びバスで散策
- 相模大野 JR東横線 相模大野 徒歩及びバスで散策
- 中央線 南町田 徒歩及びバスで散策
- 相模大野 JR東横線 相模大野 徒歩及びバスで散策
- 中央線 南町田 徒歩及びバスで散策

※所要時間は交通事情等により異なります。

発行者 2026年3月
一般社団法人町田市観光コンベンション協会
東京都知事登録旅行業 第3-6207号
〒194-0013 東京都町田市原町田4-10-20 ぽっほ町田
https://www.machida-guide.or.jp
info@machida-guide.or.jp
(042) 724-1951 ファックス (042) 724-1952

地図調製・印刷 (株)中央ジオマチック

恩田川の瀬音、歴史・自然・文化の豊かな成瀬エリア

成瀬尾根 [F-G-2~4]

「なるせ」の地名は「恩田川の瀬音が鳴り響くところ」「平安後期から鎌倉時代にかけて武蔵七党横山氏の鳴瀬四郎太郎の居城があった」等由来すると言われてます。江戸時代は、成瀬千石村と言われ、特に文化・歴史が栄えた豊か村でした。現在は、地区中心を恩田川、成瀬街道が走り、特に恩田川の両岸の桜は見事で、シーズンには賑います。また横浜市との境、東雲寺・杉山神社を上がった成瀬尾根からは東京スカイツリー、丹沢山塊、富士山等が見え散策等に人気があり、町田市の景観賞を受賞しています。

東雲寺 (曹洞宗 龍谷山成就院) [F-4]

16世紀はじめ、横浜市港北区小川の雲松院三世により成瀬城址に近い寺屋敷(現共同墓地)付近に開創。北条氏が滅した後の17世紀はじめに現在地に雲松院六世によって再興されました。成瀬、小川、恩田を知り地とした旗本・井戸石守弘道は、幕末藩政奉行としてペリー提督から米大統領の観音を受け取る重要な役目を果たしました。その井戸石守守夫妻の墓があります。また、7世紀後半(白鳳時代)に作成された銅鑄像10cm余りの誕生釈迦立像があります。左手をあげている日本に4例しかない貴重なもので、市の有形文化財に指定されています。安政5年(1854)東雲寺十七世は寺子屋を開設、明治6年(1873)に成瀬、高ヶ坂の子どもたちが通う「成高学舎」が開校されました。現在の南第二小学校です。

堂之坂公園 [F-5]

江戸時代に旗本・井戸石守弘道の敷倉があったところで、この敷倉は明治になって江戸屋敷が消滅後に井戸氏の妻と子息が余生を送った住まいと言われてます。約200種の樹木(大王松、多行松、セダングン等)が植生し、市民の憩いの場所となっています。水琴窟があり、その音に心が安らぎます。

成瀬杉山神社 [F-4]

創建不詳。代官福井清衛と地頭井戸兵衛勝吉との寄進による寛文8年(1668)の棟札が見つかっています。祭神は日本武尊。昭和49年の区画整理でこの場所に移り、明治5年成瀬・高ヶ坂の最南の学校「成高学舎」の記念碑があります。観音、恩田川流域には杉山神社が多く、市内5ヶ所のうち南地区に4ヶ所(成瀬、金森、西田、つくし野)あります。

**新しく生まれた公園の多いまち
小川・つくし野エリア**

つくし野は昭和42年(1967)まで小川村の山林で谷戸の多い地域でした。宅地造成され、その地名は東急田園都市線のつくし野駅名と同様に、全国96,865通の公募の中から選考委員の漫画家・手塚治虫氏や作家・井上靖氏、画家・岡本太郎氏らの計6名によって命名されました。地域内にはつくし野セントラルパーク、殿山ふるさと森、こうま公園等多くの公園があり、中央さくら通りと四季を通じて楽しむことができます。

つくし野杉山神社 [F-7]

元は小川村杉山神社だったのですが、昭和49年(1974)土地区画整理のためにこの地に遷座されました。創建不詳ですが、社宝の棟札には文化4年(1807)11月に杉山大明神、三島大明神、山王大明神の3社を現在地に奉斎したとあります。祭神は日本武尊。現在の社殿は昭和49年(1974)建立で鉄筋コンクリート流れ造り。本殿からの眺望は必見。町田が舞台とされる小説を映画化した『まほろ駅前狂騒曲』のロケ地にも使用されました。

福寿院 (高野山真言宗 河上山) [F-7]

高野山真言宗の寺院。山下右衛門が開基となり、朝賢を開山として寛文11年(1671)に創建したといいますが、本尊は不動。この寺には別に観音堂が付属しており、もとは隣地にあった別寺であったともいわれます。それは本堂正面に36段の石段があり、また観音堂にも44段の石階があり、かつ佛院及び観音堂両境内敷地の高低が異なることから想像されます。鎌倉古道に面し、石階を昇った本堂からは眺望がきき、日が昇り、沈む様子が現れます。

南つくし野こうま公園 [G-8]

国道246号と東急田園都市線に挟まれた傾斜地のある緑地に観音の馬の像があります。歴史的に馬の背のような谷戸であったため、昔から「馬の瀬谷戸」と呼ばれていました。芝生より展望よし、さらにトレンディビューまで広がる公園です。

町田市立総合体育館 [F-5]

平成2年(1990)町田市の市制30周年記念事業の一つとして開館しました。メインアリーナは面積2,400㎡、収容人数約2,800人。バドミントンやバレーボールなど全国及び世界規模の大会を開催しています。フットサルチーム ASV ベスラー町田のホームアリーナで、町田市の成人式(二十祭まちだ)の会場としても使用しています。

なすな原遺跡 [G-6]

町田市の代表的な縄文時代の遺跡です。昭和50~55年(1975~80)に発掘調査が行われ、町田市最古の隆起線土器(約14,000年前)や縄文時代で最も新しい晩期(約2800年前)の「透かし彫り土製耳飾り」(12点一括)が目玉。これら2件は町田市の指定有形文化財になっています。その他縄文時代の住居跡84軒、柱列跡6棟、土坑413箇所(落穴、貯蔵穴、墓溝等)も確認。埋設土器遺構等も確認されました。町田市南成瀬と横浜市緑区にまたがる約51,800㎡で、現在は東長津田車庫基地になっています。

城山公園 (成瀬城址) [F-4]

2回にわたる発掘調査で、宋銭、銃弾などが出土し、中世末期の城郭であることが判明しました。武蔵横山党の鳴瀬四郎太郎の居城であったものを、大永4年(1524)、北条氏綱が江戸城を攻略した頃、小机城の古城として修築。天正18年(1590)の豊臣秀吉の小田原征伐で小田原城の開城とともに廃城となったと思われる。眺めのよいその址を城山公園として残しています。

金森杉山神社 [C-5]

創建不詳。天和3年(1683)12月に旗本・高木伊勢守の一族が下屋敷内に再建したことが社宝の棟札に記されています。境内末社に八坂神社があります。現在の社殿は昭和11年(1936)10月に新造されています。祭神は日本武尊。西田杉山神社と同日の祭典のため、昔から毎年毎冬を過ぎて祭礼を行っています。境内には3基の記念碑や近隣に置かれていた8基の石塔などがざらりと並べられ、それぞれの解説文がわすれず書かれています。

西田杉山神社 [D-7]

創建不詳。隣的神奈川県大和市公所(くぞ)には南北朝時代、高木伊勢守の居城があり、城の守護神である日本武尊を奉斎する杉山神社を城より東北の方位(鬼門)に鎮座して城の鬼門除けの守護神とし、イチョウの木を植えてはるか城中より拜礼して無事長久を祈ったそうです。尚、このイチョウは町田市銘木百選で、3回選って祈願すれば願いを叶えてくれるとの伝説が残っています。

天満宮 (金森天神) [D-6]

町田市が緑の豊かさを目的として設置する金森天神ふるさと森の森の中に菅原道真公を祀る神社があります。19世紀前半さん「新編武蔵国史稿」の金森村の項目に記載がありますが、創建年代他詳細は不明。昭和62年(1987)3月に地元崇敬者の協力のもと修復造営が行われました。境内には有名な「こち吹かばひおこせよ梅の花あるしなして春なすれし」との歌碑が建てられています。

なんまちひまわり畑 [D-7]

地元の横田農園が所有するひまわり畑です。シーズン中は約2,500本のひまわりが花を咲かせ、その様子は往々「アグリノウスみなもと横田農園(貸しきり公園)入館券」で販売します。またお花見の場所以外の撮影や無断での花の摘み取り、住宅地ですでの近隣の迷惑となる行為は禁じます。ルールを守って鑑賞しましょう。

大ヶ谷戸の庚申塔 [F-10]

旧大川街道と鎌倉古道が斜めに交差する大ヶ谷戸バス停後ろに祀られ、文久3年(1863)建立とあります。正面につつまると刻まれ、上部にはしめ縄、左右に石灯籠が置かれています。江戸時代初期に矢倉往還が整備された頃に東海道と東横、大川詣での参拝客で賑わい、開業した大ヶ谷戸の道標としても使用されていたようです。後に1914年天明の大飢饉で江戸から送られてきた人を埋葬したと言われる供養塔もあります。

かしの木山自然公園 [E-3]

成瀬、高ヶ坂、南大谷にまたがる面積約5.5haの緑豊かな自然公園です。シラカシ、クヌギ、コナラなどが生茂り、野鳥、昆虫も多く、緑道やラベンダーなど全国及び世界規模の大会を開催しています。フットサルチーム ASV ベスラー町田のホームアリーナで、町田市の成人式(二十祭まちだ)の会場としても使用しています。

観音寺 (曹洞宗 三枝山) [E-3]

万治元年(1658)東雲寺三世が開山。本尊は観音菩薩坐像。行基作と云われています。また「卯年の観音」とも云われ、武相町年堂場48ヶ所の4番目です。境内には日枝神社、弁財天が祀られています。

与兵衛坂 [G-5]

『町田の民話と伝承(第二集)』によると、この坂のいわれは「昔、東光寺(南成瀬8丁目)に「与平」というどんな難病も必ず全快するとい評判の与兵衛という名医がいた。この医者に診てもらうには馬(与兵衛坂の東側の馬場のこと)を通らねばならなかった。そのうちに一刻も早く診てもらいたい気持ちから近くの崖をよじ登って診察を受けに来るものが出るようになった。親切に患者思いの与平は、崖を切り通して近道を作り患者の便を計った。人々はこの坂を感謝と敬意を込めて「与兵衛坂」というようになった」とされています。現在は舗装整備されています。

梅稲荷 [G-6]

梅稲荷とは穀物の神の総称。梅稲荷の総本社、全国の稲荷神社の総本社は伏見稲荷大社です。稲荷神は大別し2系統あり、伏見大系統と狐神として祀られる庶民の間から生まれた稲荷神があります。稲荷神と狐神は2月の最初の日(うま)の日に、初午祭を行います。前日は宵宮を行い幟を立て神門を飾ります。掃除し、太鼓を叩き、そばや油揚げ、お餅などを供え五穀豊穡、除災開運等を願ってお祈りします。

鶴間一里塚 [F-9]

地元住人が戸塚道、学校道と呼ぶ鎌倉古道に面する、広さ180㎡、高さ6mのお椀を伏せたような形の塚です。この塚は鎌倉時代に物見台として瀬谷原を見張った、または室町時代の禰々の乱で瀬谷原が戦場となり、その戦死者を葬った、戦場で使った刀剣や農具を埋めたなどの説があります。頂上には明治時代に村人たちが火難避除けを祈る御祈願を作り、その御祈願の場所として造った奥多摩の御稲荷神社の石祠があり、カラヤエノキ、カシが茂っています。

園成寺 (浄土真宗本願寺派 山王山) [E-10]

「新編武蔵国史記」によると北条氏綱の家臣(山中修理亮貞信)が遺世し、恵心僧徒とされる阿弥陀如来立像を安置し、天正年間(1573)に開基。本堂に鎮座する聖徳太子立像は室町時代の寄木造りのもので、ふぶりな中に愛らしい表情とバランスのよい彫法は近隣の同時代の作品の中でも優品で、町田市有形文化財に指定されています。また、蓮のふすま絵も見事です。境内には大きな桜の木があります。

日枝神社 [F-10]

本殿は熊野神社内移したもので、建築年代は享保11年(1726)一宮社流造、樺ふんだんに使い、細部まで丁寧に作られており、身舎内の墨書から鎌倉時代の名工大工・産近七郎兵衛によるもの、市内で鎌倉大工の関与が判明している唯一の例です。また、こけり葺きの屋根からは当時鶴間村に職人がいたことがわかります。

境川水管橋 [E-9]

境川には、アーチ型水管橋が4本(横浜市水道局のもの3本と神奈川県内川内成内川成内川のもの1本)架けられています。これらは、鶴間公園の中を通って横浜市に向かっています。

高ヶ坂熊野神社 [D-4]

全国にある熊野三山の信仰の一つで、創建は不詳ですが高ヶ坂村内の日枝神社と共に高ヶ坂村の鎮守寺です。祭神は伊弉諾命、伊弉册命、開東大塚村で社殿倒壊し、現社殿は昭和51年に再建されています。

祥雲寺 (龍潭山) [D-5]

曹洞宗の寺院で、大永6年(1526)に聖堂秀房和尚が開山。江戸期には幕府から寺領15石の御朱印状を拝領していた他、最乗寺の輪香を勤めていたといえます。武相町観音の37番霊場、武相寛業院第19番霊場として、それぞれ12年に一度開帳しています。本堂ツアーを行う「ツクス」やフリーマーケットなど境内を開放したイベントも積極的に開催しています。

高ヶ坂石器時代遺跡 [D-5]

平塚・福原山・八幡平遺跡の3地点からなる縄文時代の集落跡です。大正14年(1925)に発見、翌年国史跡に指定されました。半場遺跡では縄文後期の敷石居跡が発見され、覆屋のガラス越しに見学できます。福原山遺跡は縄文後期〜晩期の配石遺構で、その様子が埋め戻した敷石居跡の上に再現されています。八幡平遺跡は縄文中期末の敷石居跡で、眺めのよい高台にあります。

松村邸紅しだれ桜 [E-4]

樹齢60年、高さ12m、南北20m、東西19mの大きき育った枝垂れ桜を開花時期に一般公開しています。※夜間はライトアップもしていますが、個人宅ですので、マナーを守って観賞しましょう。

成瀬の天狗型道祖神 [F-5+G-5]

成瀬地区に3基あり、いずれも江戸時代中期の1700年代につくられたもので、全国的にも珍しい天狗型をしています。山伏のような姿をした鳥天狗とみられ、成瀬地区は鶴間道との関連性が深かったことが考えられます。町田市有形民俗文化財。

鶴間熊野神社 [E-8]

村の総鎮守。創建年代不詳ですが、本殿内陣に熊野須美神の御神像を奉安していることから、数百年前、和歌山県の熊野本宮大社・那智大社・速玉大社の熊野三山を勧請したものと言われてます。本殿建立は享保11年(1726)との記録があります。以降大飢饉や天災により、再建が繰り返されており、現在の権現造りの社殿は昭和46年(1971)の再建とされています。御祭神は伊弉諾命(いざなぎのみこと)伊弉册命(いざなみのみこと)、御神木は熊野木は熊野木は熊野木は熊野木の御守、葉が切れないこと、御神木は熊野木は熊野木は熊野木の御守。

南町田グランベリーパーク [E-9]

町田市と東急は南町田拠点創出まちづくりプロジェクトを共同で行い、グランベリーパークと鶴間公園、その2つをつなぐ形で位置するパークライフ・サイトの第一歩を「南町田グランベリーパーク」とし、2019年11月「まちびらき」しました。

loop Ondagawa [G-5]

町田市と東急は南町田拠点創出まちづくりプロジェクトを共同で行い、グランベリーパークと鶴間公園、その2つをつなぐ形で位置するパークライフ・サイトの第一歩を「南町田グランベリーパーク」とし、2019年11月「まちびらき」しました。

高ヶ坂熊野神社 [D-4]

全国にある熊野三山の信仰の一つで、創建は不詳ですが高ヶ坂村内の日枝神社と共に高ヶ坂村の鎮守寺です。祭神は伊弉諾命、伊弉册命、開東大塚村で社殿倒壊し、現社殿は昭和51年に再建されています。

高ヶ坂熊野神社 [D-4]

全国にある熊野三山の信仰の一つで、創建は不詳ですが高ヶ坂村内の日枝神社と共に高ヶ坂村の鎮守寺です。祭神は伊弉諾命、伊弉册命、開東大塚村で社殿倒壊し、現社殿は昭和51年に再建されています。

高ヶ坂熊野神社 [D-4]

全国にある熊野三山の信仰の一つで、創建は不詳ですが高ヶ坂村内の日枝神社と共に高ヶ坂村の鎮守寺です。祭神は伊弉諾命、伊弉册命、開東大塚村で社殿倒壊し、現社殿は昭和51年に再建されています。

高ヶ坂熊野神社 [D-4]

全国にある熊野三山の信仰の一つで、創建は不詳ですが高ヶ坂村内の日枝神社と共に高ヶ坂村の鎮守寺です。祭神は伊弉諾命、伊弉册命、開東大塚村で社殿倒壊し、現社殿は昭和51年に再建されています。

高ヶ坂熊野神社 [D-4]

全国にある熊野三山の信仰の一つで、創建は不詳ですが高ヶ坂村内の日枝神社と共に高ヶ坂村の鎮守寺です。祭神は伊弉諾命、伊弉册命、開東大塚村で社殿倒壊し、現社殿は昭和51年に再建されています。

高ヶ坂熊野神社 [D-4]

全国にある熊野三山の信仰の一つで、創建は不詳ですが高ヶ坂村内の日枝神社と共に高ヶ坂村の鎮守寺です。祭神は伊弉諾命、伊弉册命、開東大塚村で社殿倒壊し、現社殿は昭和51年に再建されています。

高ヶ坂熊野神社 [D-4]

全国にある熊野三山の信仰の一つで、創建は不詳ですが高ヶ坂村内の日枝神社と共に高ヶ坂村の鎮守寺です。祭神は伊弉諾命、伊弉册命、開東大塚村で社殿倒壊し、現社殿は昭和51年に再建されています。

高ヶ坂熊野神社 [D-4]

全国にある熊野三山の信仰の一つで、創建は不詳ですが高ヶ坂村内の日枝神社と共に高ヶ坂村の鎮守寺です。祭神は伊弉諾命、伊弉册命、開東大塚村で社殿倒壊し、現社殿は昭和51年に再建されています。

高ヶ坂熊野神社

